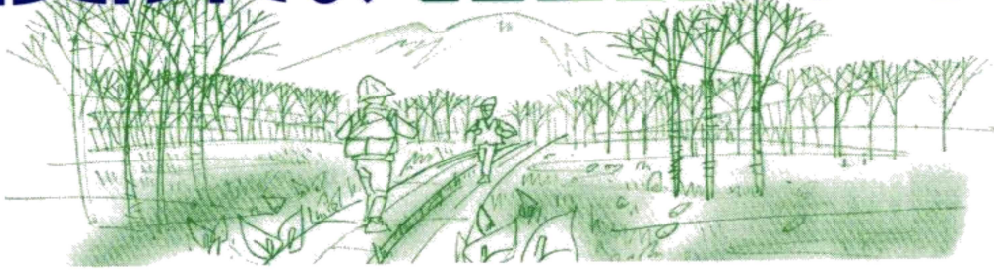


# 関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25  
TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



「福島県県南地方における労働力確保対策」 (福島県塙町長久木国有林)

(撮影者：棚倉森林管理署)

● 平成28年度関東森林管理局森林・林業技術等交流発表会を開催 技術普及課	2
● 第2期小笠原諸島森林生態系保護地域修復計画の策定と今後の取組 小笠原諸島森林生態系保全センター	5
● 森づくり最前線 天竜森林管理署 首席森林官 (三ヶ日・気賀) 田口 哲也	6



平成28年度関東森林管理局森林・林業技術等交流発表会を開催  
 森林整備部 技術普及課

関東森林管理局では、2月23日・24日の両日、関東森林管理局大会議室において、第62回目となる森林・林業技術等交流発表会を開催しました。

本発表会は、森林・林業・木材産業の成長産業化に貢献する取組の一つとして、管内の各県に所在する様々な林業関係機関の取組により得られた技術の成果や調査・研究に基づく知見等を多くの関係者が共有するとともに、これらの成果や実績を広く普及するため、毎年開催しています。

【局長挨拶・審査員紹介】

発表会の開催にあたり、漆原局長から挨拶がありました。



漆原局長挨拶



審査員からの質問

審査員には国立研究開発法人森林総合研究所の吉丸研究専門員（審査員長）、宮本広報普及科長、宇都宮大学の谷本名誉教授、栃木県林業振興協会の福田女性部会顧問をお迎えしました。

【発表課題・特別講演】

今年も国有林野職員（外部共同発表含む）のみならず、県や研究機関の職員、林業を学ぶ大学生・高校生等から、低コスト造林関係（下刈回数、低減・地拵コストの削減・低密

度植栽試験地の検証）、バイオマス発電を利用した森林整備コストの削減に向けた取組、職員の刃物災害を無くすための取組、効率的なシカ捕獲に向けた取組、森林放射性物質の除染・拡散防止に向けた対策、カスタネット製作を通じた地域材の活用事例、地域住民やNPO等と連携した森林整備への取組など、様々な分野から、2日間で23課題の発表がありました。



質問に回答する発表者

2日目の午後には、森林総合研究所森林植生研究領域群落動態研究室長の佐藤保氏による「科学的知見で示す針葉樹人工林への広葉樹林化技術」と題した特別講演が行われ、来場者からは、広葉樹林化の難しさについて意見があげられるなど、関心の高さが伺えました。



特別講演（佐藤保氏）

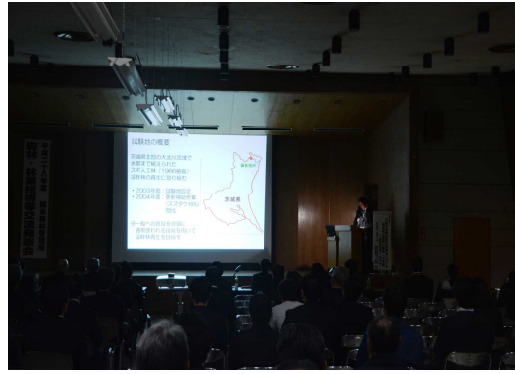
【講評・審査結果】

特別講演後、吉丸審査員長から講評があり、「日常の業務や学業等で多忙の傍ら、諸課題に対して、情熱を持ち、前向きに取り組まれ、得られた成果をまとめ上げたすばらしい発表が多く、各賞を決定するにあたり

ては、審査員一同大変苦勞した。と高い評価をいただきました。」



発表風景



発表風景



発表会場の様子

審査の結果は、別表に示す最優秀賞1課題、優秀賞8課題となりました。特筆されるのは、最優秀賞に、神奈川県横須賀三浦地域県政総合センターの黒川さん・小原さん、優秀賞に、群馬県林業試験場の伊藤さん・石田さん（※共同発表 利根沼田署の竹之内さん）、静岡県森林・林業局森林整備課の鈴木さん、と各県職員の方々の発表が選ばれたことです。

参加者は、2日間で延べ450人を数え、盛会のうちに日程を終了することが出来ました。



神奈川県横須賀三浦地域県政総合センター  
(左) 黒川さん (右) 小原さん

○課題名  
「都市近郊林における住民参加型森林管理の取組について」

○発表者所属氏名  
神奈川県横須賀三浦地域県政総合センター 地域農政推進課  
主任技師 黒川あずさ さん  
技師 小原由起 さん

【最優秀賞受賞課題】

【結びに】


今回発表いただいた皆様及び関係者の皆様に御礼申し上げますとともに、今後も、本発表会を通じ、林業に携わる方々、また、一般の方にも森林・林業への関心が深まることを期待し、新たな技術の開発や研究成果の普及に努めてまいります。



受賞者記念撮影



別表		平成28年度 関東森林管理局森林・林業技術等交流発表会の発表課題と受賞結果			
開催日:平成29年2月23～24日		関東森林管理局 技術普及課			
順	所属	発表課題	発表者	共同発表者	受賞結果
1	赤谷森林ふれあい推進センター	赤谷プロジェクトの取組を取り入れた森林環境教育	自然再生指導官 松井 琢郎		
2	群馬県立農林大学校	コナラ種子の生産量調査	中村 貴也		
3	茨城森林管理署	初回間伐における立木システム販売の試み～経費削減と森林整備～	一般職員 福岡 恵子	総括森林整備官 菊池 毅 株式会社トーセン山林経営部 経営課課長 小高 哲夫	優秀賞
4	茨城森林管理署	若年層職員の刃物災害を防ぐ取組について(鉋研ぎ等の工夫)	森林技術員 益子 寿郎	総括森林整備官 菊池 毅	優秀賞
5	森林整備課	20年経過した低密度植栽試験地から低コスト造林を考察する	一般職員 上田 萌香	造林係長 平野 辰典 棚倉森林管理署 一般職員 町田 貴弘	優秀賞
6	棚倉森林管理署	造林の低コスト化に向けた取組について～スギ植栽地の下刈りスケジュールの体系化～	森林官 須藤 誠司	一般職員 波平 開	
7	静岡森林管理署	静岡森林管理署における二ホンジカ捕獲の成果と今後の展望	一般職員 佐古 瑠子	主任森林整備官 萩原 和子	優秀賞
8	静岡県立農林大学校林業分校	海岸防潮堤植栽樹種の成育に対する塩分及び土壌水分の影響	寺田 泰彦	鈴木 巖武	
9	静岡県森林・林業局森林整備課	静岡県内民有林における低コスト造林の効果検証	主任 鈴木 拓馬		優秀賞
10	神奈川県横須賀三浦地域県政総合センター	都市近郊林における住民参加型森林管理の取組について	地域農政推進課 主任技師 黒川 あずさ	地域農政推進課 技師 小原 由起	最優秀賞
11	下越森林管理署	「鬼太郎の森」再生プロジェクトの取組	一般職員 江川 未来	一般職員 中島 千嘉	
12	会津森林管理署南会津支署	八総地区における航空測量工について	一般職員 土屋 知由		
13	磐城森林管理署	東日本大震災における海岸防災林の1割目状況報告(2)	治山技術官 菊池 文也	国土防災技術株式会社 前橋支店 技術課長 石井 剛	
14	福島森林管理署	市町村等と連携した森林放射性物質対策事業の取組について	森林整備官 林崎 裕一	主任森林整備官 黒田 隆	優秀賞
15	森林放射性物質汚染対策センター	避難指示解除準備区域等国内有林における環境放射線モニタリング調査の結果とその活用に向けた取組について	事業第三係長 長尾 美穂	一般職員 吉澤 和弥	
16	森林放射性物質汚染対策センター	避難指示解除区域等における施業再開実証事業の取組状況について	事業第六係長 中村 信平	磐城森林管理署 一般職員 小池 遊喜	
17	群馬県林業試験場	群馬県におけるナラ枯れ被害とこれまでの取組について	独立研究員 伊藤 英敏	主席研究員 石田 敏之 利根沼田森林管理署 森林技術普及専門官 竹之内 政勝	優秀賞
18	計画課	赤谷プロジェクトにおける地域材の活用取組～カスネットづくりの取組～	一般職員 小向 愛		優秀賞
19	群馬県吾妻環境森林事務所	民有林と国有林の森林整備推進協定について	係長 原澤 徳衛		
20	森林総合研究所 森林整備センター	人工造林地における樹幹流の酸度と周辺土壌への影響	宇都宮水源林整備事務所 造林係 主任 清野 陽介	宇都宮水源林整備事務所 主幹 佐藤 正道 中部整備局 収穫係 主任 柴田 卓治	
21	森林技術・支援センター	大北川溪畔再生試験地における高木性広葉樹の推移(上木編)～胸高直径5cm以上～	森林技術専門官 安藤 博之	地域技術官 仲田 昭一	
22	森林技術・支援センター	大北川溪畔再生試験地における高木性広葉樹の推移(稚樹編)～胸高直径5cm未満～	地域技術官 仲田 昭一	森林技術専門官 安藤 博之	
23	茨城県立大子清流高等学校	大子で学ぶ林業～林業を夢みて県外留学から学び感じた事～	森林科学科 武田 愛子	教諭 江幡 和士	



### 今月の表紙

## 「福島県南地方における労働力確保対策」

ふくしま森林再生事業が進む中、県南地方では労働力不足が大きな課題となつていきます。

このため、国、県、市町村の林務担当、事業体、森林組合などの参加により「ふくしま森林再生事業における労働力確保に向けた意見交換会」を定期的に開催し、事業の実施状況や事業体への協力の呼びかけなどを行つていきます。こうした活動の中で事業体からは、新規就業者の確保に向けた取り組みが重要であるとの意見が出されました。

このため、昨年12月に、棚倉森林管理署管内の間伐作業の現場で、地元の高校生に森林・林業への理解を深めてもらおうと見学会を行いました。

伐倒から丸太にして運ぶまでの一連の作業を見ていただき、生徒の皆さんからは、初めて見る高性能林業機械の迫力に感嘆の声が上がっていました。

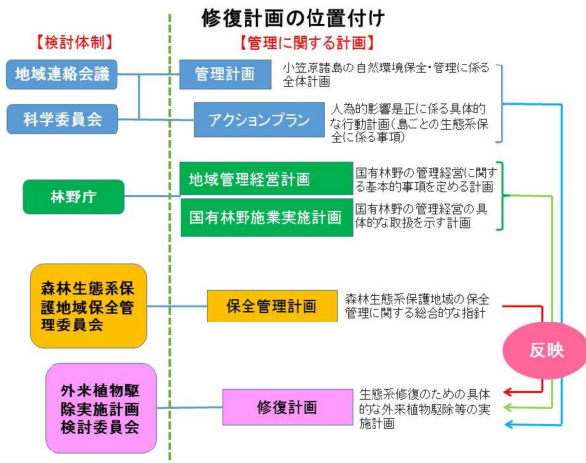
# 第2期小笠原諸島森林生態系保護地域修復計画の策定と今後の取組

小笠原諸島森林生態系保全センター



小笠原諸島は、小さな多数の島々からなる海洋島で、特異な生態系である一方、アカギやモクマオウ、ネズミなど侵略的外来種により、小笠原らしい固有の森やそこに生息する動物が深刻な影響を受けています。

このため、関東森林管理局では、小笠原諸島の国有林における森林生態系保全・修復対策（以下「修復事業」という。）として、小笠原諸島世界自然遺産地域の「管理計画」と



「生態系保全アクションプラン」、林野庁の「地域管理計画」、国有林野施行実施計画」及び「小笠原諸島森林生態系保護地域保全管理計画」に基づき、「平成23年度小笠原諸島国有林における外来植物の駆除実施計画」により、平成24年度から平成28年度までを第1期計画期間として推進してきました（図1「修復計画の位置付け」）。

第1期計画期間で修復事業で実施したモクマオウなどの外来植物駆除により固有の動植物の生息・生育環境回復が見られる一方、駆除地におけるアカギの再生、兄島でのオガサワラハンミョウの危機的状況、グリーンアノールの侵入発見など、より一層、固有の森林生態系を取り巻く環境に変化が生じています。

このため、平成28年度外来植物駆除実施計画検討委員会（写真2 検討委員会現地視察）において、平成29年度から平成33年度の第2期計画期間（短期計画）及び平成34年度以降の第3期計画期間（中長期計画）



写真2 検討委員会現地視察

第1期計画期間で修復事業で実施したモクマオウなどの外来植物駆除により固有の動植物の生息・生育環境回復が見られる一方、駆除地におけるアカギの再生、兄島でのオガサワラハンミョウの危機的状況、グリーンアノールの侵入発見など、より一層、固有の森林生態系を取り巻く環境に変化が生じています。

このため、平成28年度外来植物駆除実施計画検討委員会（写真2 検討委員会現地視察）において、平成29年度から平成33年度の第2期計画期間（短期計画）及び平成34年度以降の第3期計画期間（中長期計画）



写真4 父島東平及び東島

平成29年度から修復事業を継続して行きます（写真4 父島東平及び東島）。

森林生態系保護地域修復計画(事業実施箇所)の優先順位

優先度	列島	エリア	日徳林型	対象種	当面对策対象	対策内容	
A	ラン	父島	中央台地上南部等	コバアカテス、シマイスノキ、ムニンヒメツバキを主体とする乾性低木林と岩上荒原地	植物 オガサワラハンミョウ	乾性低木林と岩上荒原地の保護	モクマオウ、キクシム等の駆除
				東平(傘山)～初冠湖北・石浦南～稲浜初冠南～石浦北を含む)	コバアカテス、シマイスノキ、ムニンヒメツバキを主体とする乾性低木林	植物 陸水動物 オガサワラオコエモリ	乾性低木林の保護 両岸沖・溪畔域の保護

表3 優先順位の一例



# 森づくり最前線

天竜森林管理署 首席森林官(三ヶ日・気賀) 田口 哲也

私が勤務する、三ヶ日森林事務所は、静岡県最西部に位置し、湖西市及び浜松市北区に所在する、三ヶ日担当区2183鈔、気賀担当区1155鈔の国有林を管理しています。

当部内は、標高の高い所でも580m程度の低山帯であり、奥浜名自然休養林等レクリエーションの森に選定されている地域も多く、ハイキングコースが整備されているなど、浜名湖や浜松市街、みかん畑の田園風景などの美しい眺望や、豊かな自然を楽しみながら、ハイキングすることができます。

三ヶ日と言えば、みかんが有名です。江戸時代中頃、紀州那智地方から「紀州みかん」の苗木を持ち帰ったのが始まりで、その後、天保年間に、実の大きい「温州みかん」を三



国有林からみかん畑を望む



枝奥浜名自然休養林(富幕山入口)

河吉良地方から導入し栽培されるようになりましした。戦後、国有地(国有林)の払い下げを受けるなど、新しいみかん畑が拡大され、現在に至っています。また、この地域は、温暖な気候、全国トップクラスの日照時間、水はけの良い土壌など、みかん栽培に適しており、「三ヶ日みかん」のブランド名で、静岡県産みかんの4分の1を生産し、平成27年産の出荷量は、約3万1千tとなっています。

また、管内の国有林は、林道路網が発達しており、22路線、総延長81kmと1日では全線を回ることができる

難しい距離ですが、日頃から、巡視・点検を行い、異常があればチャーター等により復旧しています。一方、国有林手前の民有地の道路が狭いなど、素材搬出用の大型車が入れない地域



林道の落石を片づける筆者

もあることから、平成29年度は「ストックヤード(中間土場)」の作設を計画し、少しでも有利な生産販売になるよう取り組んでいます。



天浜線(ラッピング列車)気賀駅にて



大谷国有林から浜名湖方面を望む

管内の、引佐町井伊谷は、現在放映されているNHK大河ドラマ「おんな城主直虎」で注目を浴びる井伊家ゆかりの地です。龍潭寺や初代共保公出生の井戸、井伊谷城跡等、ドラマの舞台になっている史跡が数多く点在しています。浜名湖名物の「うなぎ」を食べて歴史の舞台を散策してみたいかがでしょうか。

発行所 関東森林管理局  
編集総務課  
TEL(057) 210-1158  
FAX(057) 230-1393